

思い出すことなど (※1)中第 40 回卒 佐藤 信久 (※2)

薄れゆく記憶を辿り、70 余年前の在学時代を証す思い出の品々を探してみた。卒業証書をはじめ 5 年間皆勤賞状、アルバムが貴重品並に大事に保管されてあった。

他に入学時に購入した工作道具のうち木槌と博物の授業で使う解剖器具のうちピンセットが出て来た。この 2 つが未だに残っていたのは偶然とはいえ、我ながら不思議である。木槌は金槌の代用として使われたようで、かなり凹凸が激しく傷んでいる。ピンセットは野菜や花卉類の虫とりやトゲ抜きに重宝がられてきた。工作は入学して初めて体験する授業で、生来不器用の私も台所用の布巾掛けや竹で作った箸立て等家に持ち帰って両親に喜ばれた記憶がある。

博物は繁在家 (※3) 先生で 1 年の途中で応召翌年戦死された。蛙の解剖が思いに残る温厚な学者タイプの先生であった。我々 40 回生は入学して間もなく日中戦争が起こり卒業間際の 12 月には太平洋戦争に突入するという所謂戦時体制下であって、息苦しい緊迫した 5 年間で過ごしたのである。

先ず卒業証書であるが、福島県士族 佐藤信久と出身県と族称が記され、校長名は従五位勲六等吉田廣佐 (※4) と位階勲等が記されてある。

入学当初は制服・制帽・外套・背囊（ランドセル）等はホンモノといわれた純毛・木綿・牛皮の類であったが、学年が進むにつれて物が不足し、粗悪な代用品と呼ばれるシロモノに変わっていった。

さて在学 5 年間の思い出が凝縮されたアルバムを開いてみよう。最初に皇紀二千六百二年卒業記念寫眞帖とあり、次頁には朝夕登下校の際に最敬礼を欠かさなかった奉安殿、校門・校旗・修練隊旗（今の学友会旗か）がある。すべて 30 葉の写真集であるが、時局を反映して随所に軍事教練・演習や部活では射撃部や国防競技部等の写真が目を引く。

就中最も思い出深いのは 4 年の時の所謂修学旅行である。しばらくは時局を慮り実施が懸念されたが、相農・双葉中・相女・常盤木女等数校で団体集約列車が編成され、記念すべき皇紀二千六百年 7 月 7 日から 5 泊 6 日（内 2 泊は車中）の日程で聖地参拝修練旅行は実施された。

勿論制服制帽に巻脚絆をつけ背囊を背負って一糸乱れぬ団体行動である。伊勢皇大神宮・橿原神社・靖国神社・宮城や畝傍・桃山御陵など地理や歴史で学んだ神社・仏閣や古代の御陵等まのあたり拝観し感慨も一入のものがあった。この旅行のために、入学当初から毎月 50 銭の積立貯金をし、総費用は 20 円程度であったと記憶している。

心に残る恩師は数多いが中でも私の進路に大きな指針を与えてくださった高野藤三<sup>(※5)</sup>、市村正二<sup>(※6)</sup>、林宗男<sup>(※7)</sup>の3先生は私にとって生涯忘れ得ぬ大きな存在である。

高野先生は第1回卒の大先輩であり、授業の節目には「わかった者」と挙手をさせ、生徒個々の理解を確かめながら次に進められた。特に国文法の授業は人気が高かった。

ある日のこと、教練の始業前、どこからともなく異臭が漂ってきた。おそらく近辺の民家で便所汲みが始まったらしい。途端にダラ・ダッ、ダ、ナ、ナラ、トンと憶えたとの五段活用が誰からともなく口に出て哄笑を誘ったところへ教官殿のお出まし、お目玉頂戴的一幕であった。

当時の受験指導は与えられた問題の解答を作成し、担当の先生に提出して添削講評をいただく個人指導だったと思う。5年生の国語は東大を出たばかりの市村先生で斬新な魅力ある授業と懇切な添削をいただいたことが心に残る。

最後に5年生時のクラス担任だった林先生について記さなければなるまい。物理担当で歯切れのよい説明、明快な指導で定評があった。そして私にとって進路決定の指南役でもあった。先生はその後、双葉中学校長に昇任され、在任わずか半年にして県教育委員会に抜擢され本県教育行政の重鎮として活躍された。

後年先生は故郷長野県に帰り、県立飯田高校長で退任されたと聞いている。

いで  
出てゆく駒のひづめは高くとも

ころばぬやうになほ祈るなり

これは我々の卒業に際して贈られた先生の暖かい餞けの短歌である。

私は先生の後輩として東京高師（現筑波大学の前身）に入学し、その後縁あって母校の教壇に立つことになる。

(※1) 『紅の旗 創立百周年記念誌』 〈2009(平成21)年1月発行〉「思い出の記〈ああ、我らが青春の日々よ〉」。

(※2) 荻野出身。昭和17(1942)年卒。東京文理大。元磐城高校校長。相高教諭：昭和24(1949)年～昭和27(1952)年、国語。

(※3) 繁在家由松。相中教諭：昭和12(1937)年～昭和14(1939)年、博物。戦死。

(※4) 相中校長：昭和16(1941)年～昭和19(1944)年。

(※5) 中村出身。相中第1回、明治36(1903)年卒。検定。相中・相高教諭：明治39(1906)年～昭和26(1951)年、国語/漢文。

(※6) 相中教諭：昭和15(1940)年～昭和21(1946)年、国語/漢文。

(※7) 相中校長事務取扱兼教諭：昭和16(1939)年～昭和21(1946)年、理科(物理)。